

令和8年度

東祖谷小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 学習における基礎・基本を身につけ、自ら進んで学習に取り組む態度を育成する。
- 話し合い・学び合いを充実し、豊かな表現力を育成する。

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 委員		校長
青山 陽央	〔総括〕藤原 隆司 【教務主任】藤山 仁司	藤原 隆司
	〔研修主任〕藤山 仁司	
	〔1・2年推進〕前上 駿介 【4年推進】永井 朋美 【5年推進】青山 陽央	
	〔6年推進〕藤山 仁司 【食育推進】谷藤 美紀	

【各校の取組状況の把握について】

自校で設定した成果指数を基に、取組状況を学期ごとに検証する。

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字・計算検定の実施により、達成度が明確となり自分に合った課題に取り組むことができる。 ○漢字・計算など、基礎的、基本的な知識を身につけている。 ●同学年の児童がおらず、友達同士のコミュニケーションによる新たな語彙の獲得が難しい。	○読み・書き・計算の基礎的、基本的な知識・技能を確実に身につけることができる。 ○読書を通じて、さまざまな表現や語彙に触れて適切に使う。	○漢字・計算検定を行い、基礎的・基本的な知識および技能を習得させていく。 ○読書の機会を増やすとともに、読書記録などの取り組みをして読んだ本の内容をフィードバックする活動を行う。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自主勉強や授業中のノートを掲示しており、他の児童の良いところを手本として取り組むことができる。 ●自分の考えや意見を持てなかつたり、自分の言葉で表出できず、限られた語彙での表現になる。 ●話し合い活動の人数が少なく、多様な意見に触れられないため画一的な活動になりがちである。	○学んだことを学年にふさわしい多様な表現方法を用いて、書いたり発表したりすることができる。 ○読み取ったことや考えたことを、根拠を明らかにしながら話したり、文章の構成を考えて書いたりすることができる。 ○読書や書いたものを共有することを通じて様々な人の意見や思いに触れようとしている。	○学年や個人の目標を持って自主勉強に取り組ませる。 ○読書の活動とリンクさせるなどしてすぐれた文章表現やアイデアにあふれた日記を廊下に掲示し、語彙の習得を図る。 ○日記で自分の生活や思いに目を向けた書く活動を習慣化して行う。コメントもいろいろな教員に依頼し、様々な価値観に触れられるようにする。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○興味を持って学習に取り組むことができる。 ○タブレット端末を用いて分からないことを進んで調べることができる。 ●同学年の児童がいらないためか、学習に対してのモチベーションをあげる 것이 難しい。 ●自分のことや世の中の事象に対して自分の意見や考えを持てない児童もいる。	○自ら目標を立てて学習に取り組むことができる。 ○タブレット端末を活用し、自ら学ぶことができる。 ○身の回りや世の中の事象に興味を抱き、自分事として関わろうとする。	○自分で目標を立てて授業やドリル学習に取り組ませる。 ○学級指導を通してタブレット端末の様々な使い方を児童と共に考える。 ○教師が朝の会や帰りの会、授業では学習内容に関係する話題を提供し、児童が興味を持てるようにする。			

令和7年度 学力向上ロードマップ

